

ふくろう新聞

＜発行＞
 特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷
 広報委員
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyofuku/>

平成25(2013)年度事業計画案

平成25年度の法人事業計画案が示されました。今月に行われる法人役員会において提案・審議されます。

1. 地域と共に安心・支え合いのある暮らしを

①中川原ふれあいセンター(旧中川原中学校校舎活用)の事業拡充

就労支援事業「おのころの家」の移転準備を含む第二期工事の着工を整備中の給食センターの工事と調整しながら進めます。

②ふれあいセンター一周年記念事業

新しいパンフレットの作成
 『おたがいさま中川原・桜ヶ丘物語(仮称)』の作成
 道しるべ・看板の作成

2. 神戸市内や福祉圏域へ地域聴覚障害者福祉事業の拠点建設をめぐって

①兵庫の聴覚障害者が暮らす地域に障害者・高齢者サ-

ビスの拠点建設を念頭とした実態調査事業に参加

②関係事業者との相談部門の連携

県内の聴覚障害関係事業者の相談部門の連絡会で生活やニーズの分析検討を進めます。

3. 10年目への節作り

平成25年度のふくろうの郷、当初予算は1000万円の赤字予想です。厳しい現状を踏まえつつも、事業拡充の中で、法人力・施設力・職員力をアップしていきたいです。

現在の法人・施設・職員の積極的な評価だけでなく、改善や克服すべき問題に全力をあげ、それを10年目の節作りに生かします。

柴山さんから学んだ「共に生きる」

2月20日、淡路ふくろうの郷の入居者、柴山貞子さんが逝去されました。

92回目の誕生日を翌日に控えての突然の悲報でした。

貞子さんのお顔は「声をかければ目を開けてくれるのではないか」と思うほど、やすらかな表情でした。

通夜の場で、長男・康治さんからのあいさつの中に「ふくろうの郷のみなさんから、心のあたたかさをいただきました」

と、ありがたいお言葉の後、様々な想いに溢れたのか、涙となり言葉を詰まらせておられました。

2015年4月の新会計基準移行準備を法人・施設の財政の強化と共にすすめます。

法人理事会から職員会議などの自己点検を強め民主的運営・人格形成を活かします。そのためにも役員職員の研修をさらに強化します。安心・安全を土台として当たり前のことが当たり前に出ること、障害者と高齢者への援助力を統一的に進められる知力を磨き合いたいです。

まずは新採用職員の研修充実からです。それらのだ

9日、高知県で聴覚障害者の老人ホームの設置を求める集会に参加しました。集会は、県聴覚障害者協会など5団体呼びかけ200名余が参加、集会では、「一人ひとりが大切にされ、一人ひとりが自分を大切に出来、一人ひとりの生活と人生に寄り添う運営をめざし、運営に障害者権利条約と障害者基本法が生かされること」等が確認され、各地での聴覚障害者に配慮された施設づくりに期待します。

自由で活発な意見交換・相互批判で人格を磨き技術を上げる

めの講師などを招聘・確保します。

役員・主任・リーダーが率先して、気になることを気になる役員に言える自分になること。

頭や腹の中にあることを言い合える、職場コミュニケーションを飛躍的にあげ、人格と人格のぶつかり合いと磨きあいが必要。

ふくろう新聞をお渡ししています皆様方からの不断のご意見をお寄せいただけますようお願いいたします。

(施設長：大矢)



▲ 柴山さんのご自宅「柴山ハウス」では入居者のための憩いの場として活用させていただきます。

ました。

「心のあたたかさ」をいただいたのは私たち職員も同じです。

遠方から毎週面会に来てくださり、母を慕う、あたたかな思いは私たち職員にも伝わってきました。長男さまご夫婦は、ボランティアとして施設の掃除など、他の入居者のくらしを支援してくださりました。この行動からも「心のあたたかさ」や、「共に生きる」ことを学びました。

今ももう貞子さんのお世話をするのができませんが、貞子さん、ご家族のみなさまとともに過ごした時間は入居者、職員の心に刻み込まれ、これからも生き続けます。

貞子さんのご冥福をお祈りします。

(担当：神代)

花房夫妻の自分史づくりを支援

新しいことを学び、感謝しながら

淡路ふくろうの郷の同居者、花房夫妻の自分史作り支援が始まりました。

ろう協、サークル交流のある毎週木曜日のうち1回を自分史づくりの活動にしてみたいと思います。

加古川へ行き、入所前からお付き合いのあるサークルの方や友人に集まっていたいただき、いつも、花房夫妻からうまく引き出せるように心がけています。

アルバムで

記憶のよみがえり

1月17日は、ふさ子さんが発熱のため職員だけで参加。アルバムから30枚程を拔出し、



▲アルバムを手がかりに・・・豊治さん(左)とふさ子さん(右から2人目)



▲加古川よりサークル仲間が訪問

拡大コピーを並べて振り返りしました。20日には、友人の水田さん・荒木さん達が面会を兼ねてふくろうの郷まで来て下さりました。長年のお付き合いだった友人の方と、ふさ子さんとの間で、幼くて死別した子どもさんの話になった時は、話をやめ手を握って涙をこぼされ抱きしめあわれました。

2月14日には、花房夫妻揃って加古川へ行くことができ、一緒に拡大写真やアルバムをながめ続けることで手掛かりとなり、緘黙(かんもく)の豊治さんも記憶がよみがえり、懐かしそうに眺め話されていました。豊治さんは、言葉は少ないのですが、会

●ダスキン研修:モルディブよりアシュファッグさんを受入れ

2月14日から22日まで、モルディブからの研修生・アシュファッグさんがふくろうの郷に来られました。

日本手話が上手で、同居者さんや職員とモルディブの文化や日本との生活習慣の違いなど、詳しくお話をしてくれました。

また、おのころの家・淡路聴覚障害者センター等にも見学に行かれ、聴覚障害者への支援方策等について積極的に学ばれたり、また、手話サークルでは講演や交流をされるなど、短い期間でしたが色々とは経験や交流をして頂けたのではないかと思います。

(生活援助員:原口)

話をされる姿も見られ、その姿に学ぶものが大きいです。

一日も早く完成させたい

私達は花房夫妻の自分史作りに関わり、コミュニケーションのとり方も含め、考えるきっかけをい

ただただ感謝しています。自分史が花房夫妻を中心に、加古川の皆さんと淡路ふくろうの郷との共同で一日も早く完成させ、DVDも付けたものになりたいと思います。

また沢山の方にも懐かしいと思いつつ読んでいただけたよう頑張つていきたいと思つています。

(生活援助員:石川)



▲食事介助もていねいに

研修会で、アシュファッグ氏(モルディブ)とレイモンド氏(フィリピン)の2人にお話を聞きました。

ろう者の女性や子どもへの差別が大きな問題

お二人から、それぞれに自国の現状のお話をいただきました。どちらの国でも、特にろうの女性や子供たちに対する差別・虐待の問題が大きな課題となっていると報告されました。今回の研修で学んだことを、自国に帰ってこの課題を解決したい、と力強く話されたのが印象的でした。

(生活相談員:竹原)

第20回ふくろう学習会

活動の基本は、仲間・学習・要求づくり

2月9日(土)の午後から第20回ふくろう学習会を約20名の参加者で開催しました。

講師には、兵庫県聴覚障害者協会事務局長の嶋本恭則氏をお招きし、「兵庫と日本のろう青年に望むこと」をテーマにお話いただきました。

青年部の発足から、現在の

状況についてのお話があり、特に活動の基本にしている「仲間作り・学習作り・要求作り」の3本柱の活動の大切さが強調されました。また、最近では、会員数の減少傾向にあり、改善しなければならぬ課題であると話されました。

(生活相談員:竹原)

研修でお話しを聞いて



花木ユニット誕生日レクリエーション 柴山ハウスでの誕生会〜カニ鍋パーティー〜

2月13日(水)に柴山ハウスにて誕生日レクを行いました。

カニ鍋、みそ鍋、はらこ飯をメインに、デザートでホットケーキを作りました。野菜切り、盛り付け、味付けを入所者皆で担当を分けて協力しました。

味付けに好みありますが、皆には大好評で、あつという間の時間でしたがゆつたりとした時間が流れ、皆と一緒に美味しく鍋を楽しみました。

(生活援助員・足立)



「優性思想」中学生の頃、ハンセン症の方の話聞き、「断種」という悲しい歴史があつたことを強烈に感じました。しかし、それが聞こえない人にも関係があつたとは…。

また、聞こえない友人をたくさん知っている一人の人間として人の過去に触れ、丁寧に聞き出す。大切に接する。それは歴史的に観ても大変意義あることなのですね。そして、想いなくして

貴重なことを形に本当に感謝です

〜勝楽進・佐代子夫婦自分史の感想〜

ましてや、自分が生まれた歴史は残らないのだなとも。

頃には、まだ法律にも載つていたという事実。知らなかったことをていく宝物を改めて尊敬の意を恥ずかしく思いつつとてもショックでした。聴覚障害者福祉従事者として。

貴重なことを形にしてください、本当に感謝です。

東京・福島悠佳
(トット文化館)



※勝楽さんの「自分史」をご希望の方は総務までご連絡下さい。

TEL: 0799 (25) 8550
FAX: 0799 (25) 8551

3か月越しの誕生日祝い



藤本紀代さん(72歳)

諸事情が重なり昨年11月から延期になっていた藤本紀代様の誕生日のお祝い外出レクを2月に行うことができました。

「遅くなりましたが、誕生日のお祝いに出かけましたよ。去年は、ハルエに行きましたが、今年は何処に行きたいですか?」と、お伺いすると、「お風呂・ご飯・買物: 行きたいところは、一つには絞れないようで、去年同様お風呂(行くことに決定し、五色のゆーゆーファイブ(行くこと)にしました。

色々なお風呂を1時間程楽しみ、昼食はおそばと海鮮丼を舌鼓、楽しい一日となりました。

残念ながら、インフルエンザが流行している時期だったので買物はできませんでしたが、いつもとは違う、ゆつたりとしたお風呂と、食事を楽しむことができました。

今年の誕生日は、どこへ行きましようか? 誕生日が待ち遠しいですね。

(生活援助員: 加藤)

グループ訓練

去年の7月から、長期・短期の間こえる利用者さんに呼びかけて、認知症進行予防のためのグループ訓練を行っています。

1回につき20分〜30分で、日付や参加者の名前の確認、体操をして、季節の童謡を歌います。

音楽がかかると顔がぱつと明るくなって歌い出す方、昔を思い出しているのか、じつと聞いている方、歌詞を見ながら小さな声で一息懸命歌う方: それぞれに楽しまれていくようです。

(機能訓練指導員: 齋藤)



歌を聴いて自然と手拍子が…

サークル・地域・職場で学びの継続を 手話奉仕員養成講座4か所で閉講式(3/7)

手話は難しかったけどだんだん楽しくなってきた。修了の今日が「はじまり」と思う。ろう者と出会って価値観が180度変わった。これからは手話ができて当たり前前の社会にしなければと思う。

手話を通じて多くの人々と学べた。これから一人でも多くの方々に聞こえないことへの理解を広められる一員になりたい。

昨年5月から4か所で始まった養成講座が3月7日をもって一斉に修了し、約60の方が修了されました。閉講式のあと、島内のサークル会員との交流を持ち、手話や聞こえないことへの学びを続けたいとの積極的な意見が聞かれました。

淡路聴覚障害者センター
センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階



閉講式のあと、サークルとの交流会で質問が相次ぐ洲本屋の部会場



職場研修の一環として参加南あわじ市の職員さん



精神的・心理的な問題を抱えている方の相談が増えています。センターでは毎月精神保健福祉士によるこころのケア相談を行ったり、登録通訳者研修会に心理士を招き事例研修を行い、支援の専門性の向上に努めています。1月の事例で出されたAさんは病院通院時の手話通訳、家庭訪問による生活状況の把握などでセンターが関わっている他、社会福祉協議会、介護保険のケアマネ、地域活動支援センター等から様々な支援を受けています。最近のAさんは歩行の不安定さや自宅にこもりがちで意欲の喪失も心配されてきました。

市に要望し支援者会議を開催

～増加する精神的・心理的相談に対応～

今後一人暮らしが困難になることが想定されるAさんの支援について関わりのある支援者が集まり共通認識を持つ必要もあることから市福祉課に、支援者会議の開催をお願いしました。

市他、社協、ケアマネ、地域活動支援センター支援員が集まり、情報の共有、キーパーソンとなる支援者や役割について確認しあう中で、親族との関係作りや健康面での不安からの訪問看護の派遣等、新たな支援の必要性が検討されるなど、支援者が集まり、それぞれの専門的立場からケースを見直し、連携体制を築いていくことの大事さが確認し合える機会となりました。

(辻)

25年度手話講習会ご案内

昼の部 午前10時～12時

洲本会場(みなと元気館) 毎週火曜

25年5月14日～26年3月4日

淡路会場(市立中央公民館) 毎週水曜

25年5月15日～26年3月5日

南あわじ会場(三原公民館) 毎週金曜

25年5月17日～26年3月7日

夜の部 午後7時～9時

洲本会場(やまて会館) 毎週木曜

25年5月16日～26年3月6日

南あわじ会場(三原公民館) 毎週木曜

25年5月16日～26年3月6日

☆ 受講料 7,000円(テキスト他)

☆ 申込締切 5月7日 センターまで

みなさんの要望で新しい手話のDVD揃えました。ご利用ください

- ・手話この魅力あることば 32・33
- ・手話通訳レッスン 10
- ・視ることば・聴くことば(大原省三氏)



第16回あわじ耳の日のつどい

福祉機器・防災グッズを展示しました。難聴者からは障害者手帳等級の制限のため自分で購入せざるを得ず困るとの声も寄せられました。



県事業の難聴者向けコミュニケーション事業開催 in 淡路市(2/6)

県情報センター岡講師の指導により参加者5人でゲーム感覚で相手の口元を見て読み取る練習を楽しく行いました。



おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX 0799-26-0956

草刈りの達人山野さん

平成18年3月から通所

今年88才。

おのころの家の恵比寿様。笑顔の素敵な山野さん。十数年前奥さんを亡くされ一人暮らし。週5日間通所され、午前中は、暑くても寒くても草刈りや清掃、午後は、ちぎり絵の屏風製作に励まれています。

働く事が大好き

若い時は、漁をしたり、平成の初めまでは、土建の仕事をしたり、体力には自信を持っている山野さん。いつも自分は頑丈と



いつも「ガッツ」で

ガッツポーズをする姿は、88歳とは感じさせません。

包丁やハサミの調子が悪いと、「ちよつと見せて」と言わんばかりに手に取って研ぎ磨き、「どうだ!!」とニコツ。「ありがとう」でまたニコツと。本当に笑顔の絶えない山野さんです。

親友の濱口さんと

孫のように歳の離れた濱口さん(32才)とは、いいコンビで、草刈りする時もいつも一緒。昼食もお互いに好きや嫌いな物を交換したり、おやつも違うものを一つずつ取って半分ずつにしたり、見ている微笑ましく、本当に仲の良い相棒です。

映画も大好き

貼り絵は、和紙をちぎって貼つていきます。細かい作業ですが、コツコツとされています。朝通所して来て、清掃に出かけるまでのちよつとの時間も惜しんで貼っておられます。現在、狩野永徳筆「唐獅子」の屏風を作っています。映画館にもよく行かれて、送迎の時、映画の看板を見て、「あれは良かった」とか「あかんかった」と教えてくれます。時代劇が好きで、洋画もよく見られます。(生活支援員・藤本)

おのころ屋



〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

お客様の

励ましに感謝

多くのお客様に焼きたてのパンを食べて頂きたいとスタッフ一同頑張つて焼いているのですが、現状では、オーブンが1台しかないのので焼き上がりの時間が遅くなります。

先日も店に入つて来るなり「まだ焼けてないの? 待ってるから焼けたのをすぐに袋に入れて!」とオーブンから出してすぐの熱々のメロンパンを10個買って仕事に行かれたお客様が、レジでお金を出しながら「朝が勝負よ! 美味しいんだから頑張つて焼けば売れるわよ!」と励まして下さいました。

毎日、時計を見ながらパンの発酵時間、温度調整、燃焼時間を計算し、合間をみてはクッキーを焼いています。注文があった時はお客様の希望時間に合わせ焼かなくてはなりません。移動販売のある時は出発時間に合わせて焼き上げるので、職員

が準備のために出勤時間を早めています。

パン専用のオーブン導入により、パンが店頭に並ぶ時間も早くなると思っています。スタッフも手順に馴れてきましたので、パンや焼き菓子の種類の幅を増やしていきたいと願っております。

(職業指導員:岡本)



▲どこに置こうかな?

あたりまえの生活ができない状況が続く『障害者総合支援法』

★「障害者自立支援法」は「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」となり、平成25年4月から施行されます。

昨年6月の国会で、「骨格提言」への十分な審議もされずに成立しました。

制度の根幹でもある利用料の負担、障害程度区分で利用できるサービスが限られる問題などは何も解決されず、障害があることを理由に、あたりまえの生活ができない状況は続きます。

★地域生活を送る為の支援にかかる費用は『原則無償』に

たとえば、コミュニケーションをとるための手話、職場で必要な支援や移動支援などは、生きていく上で欠かせない支援です。このような最低限度の生活を送るための支援は、無料にすべきです。骨格提言では下記の支援を「原則無償」と提言しています。

- ①相談や制度を利用する為の支援
- ②コミュニケーションの為の支援
- ③日常生活を送る為の支援や補装具の支給
- ④社会生活・活動を送る為の支援
- ⑤就労支援
- ⑥医療・リハビリテーションの支援

★私たちは、「利用者主体」そして「骨格提言」を実現するために、あきらめずに、粘り強く運動を続けていきます。(管理者:橋詰)

続・地域を語る

第51号

淡路人形浄瑠璃芝居

中野人形座の由来 その一

中野篤一郎氏はかねてより古典淡路人形芸術の哀願を歎き之が復興に多年若心していたところ、昭和9年鮎原村人形座小林六太夫座は「多年紀伊侯爵家のお抱へ人形座として他座に見られぬ特別の待遇を受けて、悠々たる生活をしていたものだった

が、明治初年廃藩にてこの優遇を解かれて、俗に云う猿も木から落ちたる思いで、生活は苦しく、巡業も意の如くならず、火災や水難と次々の災に負債に負債を重ね一座を売却しようとす

るのを横浜市貿易商人が聞きつけて、志筑町長森田福二郎方へ

来たものだったが、全氏はこの買総 務 永田秀次郎

人を追い出し、全時に同好の士相談役 判事 植松巖、勸銀支店

を招いて鮎原村に至り、債務の森田福二郎、生穂町長

調停を計ったもので中野篤一郎今岡義之、関西配電支

氏は全責務を負いて、債務を完所井上勲、毎日新聞社

済して、一座の用具を引取り、そ岡田貞一、島俊一、等

れらの整備を調べて、永田秀次郎

閣下湯沢知事其他有位地名の士

の後援を得たものだった。

丁度この時大楠公六百年記念

大祭が催されるを知り、早速楠

公劇を新作して、神戸市内各学

校、各種団体に観賞せしめてよ

り、東京市報知新聞社大講堂及

有楽座・東宝劇場・学校等にて順

次公演、好評を博し、「文楽は大

阪に」「淡路は東京に」との激賞

を受け、この要望に答え東都に

常設劇場を開設せんと、各位の

熱意に奔走していたものだった

身体を動かして楽しい時間 いきいき百歳体操



▲地域のみなさんと一緒に体操をしています

「百歳になっても元気に自分で歩けるように」と、中川原ふれあいセンターで実施されている「いきいき百歳体操」に、ふくろうの郷の入所者さんも参加を始めました。地域の方と一緒に、DVDを見ながら、手足に重りをつけ、じっくりと動かし、2月14日には、体力測定を受けました。3か月後の測定時にはどのような変化があるのでしょうか。



▲谷妙子さん(80歳)

ボランティア紹介

松岡誠二さん

夏をキス釣りを楽しみに

私は淡路島に来て2年。魚を釣ること、食べることが大好きです。春のメバルにはじまり冬

まで、一年中お魚と接しています。

昨年5月から、手話奉仕員養成講座を受講し、手話の学習を始めました。そして、淡路

ふくろうの郷の見学やふくろうふれ愛まつりなどで、入居者の皆様

とふれあう機会がありました。趣味の釣りの話をして盛り上

がったり、手話を教えてもらった

りすることがありました。

この夏には一緒にキス釣りに行こうという話になり、楽しみに

しています。

明るく元気な淡路ふくろうの郷の皆さんとふれあうことを楽しみに、お邪魔したいと思っ

ています。

(松岡誠二さんより寄稿)

伝統文化にふれ学ぼう

中川原春まつり

4月7日(日) 13時

※雨天中止

淡路ふくろうの郷にだんじりが来ます

作品介绍

ふくろう大学

書道講座



▲渡辺雄さん(91歳)